

## 習志野・陸軍遺跡ぶらり旅資料

### 1. 実籾駅

大正15年(1926)12月、京成電気軌道株式会社(現:京成電鉄)により津田沼-酒々井間25.3kmが開通し、実籾駅も同時に開業した。

現状の1日平均乗降客数は24,292人(2024年)である。

### 2. 実籾木戸

下野牧は幕府管理の牧場であり、馬が逃げて田畑を荒らしたり、集落への侵入を防ぐため、牧の周囲には「野馬土手」と呼ばれる土手が築かれていた。

牧内を通る道の出入口部分や、道を越える箇所には、人ではなく馬の出入りを調整するために木戸が設けられた。

### 3. 俘虜収容所・高津廠舎

#### (1) ロシア兵俘虜収容所

明治38年(1905)~明治39年(1906)の日露戦争期、ロシア兵捕虜を最大15,000人収容した。



出典:くらべてみよう いまむかしマップ

#### (2) ドイツ兵俘虜収容所

大正4年(1915)~大正9年(1920)の間、第一次世界大戦のドイツ兵捕虜1,000人を収容した。大正7年(1918)には、捕虜の中にソーセージ職人が存在し、千葉の畜産試験場へ製法を伝授。この技術が農商務省の講習会を通じ、日本全国の食肉加工業者に普及し、のちの「習志野ソーセージ」の起源となった。

#### (3) 習志野支鮮人収容所

大正12年(1923)9月、関東大震災の際、3,700人を超える朝鮮人や中国人が「保護」を名目に収容された。釈放後、近隣の地元自警団へ引き渡される中で、多数が殺害された事件があった。

#### (4) 高津廠舎

明治時代、習志野原が軍の演習場となった際、演習に参加する将兵の宿泊施設として、廠舎が新たに建造された。

### 4. 八幡稻荷神社

かつて、陸軍の演習時に利用された宿泊施設の一角に祀られていた神社である。兵士たちが参拝し演習に臨むと、必ず良い結果がもたらされたと伝えられ、評判が高かった。

### 5. 糧秣廠(りょうまつしょう)倉庫

陸軍糧秣廠習志野倉庫は、現在の東習志野一丁目、市立習志野高校の敷地に存在していた。糧秣とは「兵員の食糧と軍馬の飼料」を意味し、糧秣廠は品目の調達、製造、貯蔵、補給などを担っていた。

### 6. 鉄道連隊演習線

現在の広い歩道は、かつて鉄道連隊が津田沼から千葉まで敷設した演習線の跡である。明治39年(1906)には、日露戦争で購入した鉄道資材を習志野の捕虜収容所跡へ保管するため、津田沼ー習志野間に軽便鉄道が敷設された。

さらに、明治41年(1908)~42年(1909)に、この資材を千葉に移転するため、習志野ー千葉間にも軽便鉄道が加設され、明治44年(1911)に移転作業は完了した。その後、鉄道連隊の演習用路線として利用され、初期は多少ルートが変更されたものの、津田沼ー大久保ー三山ー高津ー犢橋(こてはし)ー宮之木ー園生(そののう)ー千葉の約16.7kmを、軌間600mmの軽便鉄道として走行していた。また、軌間1067mmや1435mmの普通鉄道が並行して敷設されたこともあった。

昭和35年(1960)には、津田沼ー高津駅間が陸上自衛隊101建設隊の演習線として用いられたが、6年後に廃止され、敷地は道路等に転用された。

現在、練習線跡に沿った道は「マラソン道路」として親しまれ、習志野市のハミングロードの一部となっており、桜が植えられて4月上旬に花が咲き誇る。

道端には陸軍当時の境界標識も随所に見受けられる。

### 7. 習志野学校

#### (1) 習志野学校

昭和8年(1933)に開校。従来、騎兵第16連隊が駐屯していたが、満洲へ移転した第13連隊の跡地に移転して設置された。設置の目的は「陸軍習志野学校令」に記すところの「軍事に関する化学の教育および調査研究等」を行うことで、毒ガスの知識普及やその使用法、防御法の調査研究が使命とされた。

昭和10年(1935)には敷地が拡張され、第15連隊後地も統合された。

昭和20年(1945)の終戦時、学校施設は空襲の被害を免れたが、降伏直後に校内で文書や設備が破壊・焼却された。学校幹部は米軍の指示で学校史の作成にあたったが、翌年、残存資料とともに米軍接収となった。その後、関係者により『陸軍習志野学校』が編纂されたが、記憶に基づく内容となっている。

戦後、施設は警察署、学校、住宅、保育園などへ転用され、特に中心施設であった騎兵第16連隊の跡地には千葉大学の腐敗研究所が設置された。昭和52年(1977)に腐敗研究所が千葉市内へ移転した後、財務省の所管となり、現在は「習志野みどりの会」による維持活動が行われている。

## (2) 裏門跡

習志野学校の裏門の一部が現存している。この地点の北側には、かつて船橋市三山に練兵場があった。かつては脇に歩哨が配置されたコンクリート製の監視所も設置されていたが、平成 26 年（2014）に撤去された。

## (3) 弾薬庫跡

公園の一部はコンクリートで盛り上がり、ベンチが設置されている場所に、かつて弾薬庫が存在していた。頑丈なコンクリート構造であったため、撤去に手間がかかった可能性から、公園の一部として利用されることになったと考えられる。



動物慰霊塔

(2015 年 11 月 7 日撮影)

## 8. 騎兵第 2 旅団第 16 連隊

騎兵第 2 旅団は第 15 連隊と第 16 連隊から構成され、初代旅団長には閑院宮載仁（かんののみや ことひと）親王が就任した。

習志野の森およびその西側は、第 16 連隊の跡地となっている。

昭和 7 年（1937）のロサンゼルス・オリンピック馬術大障害飛越競技で金メダリストとなった西竹一（別名：バロン西）が第 16 連隊に所属しており、その後硫黄島で戦死した。

## 9. 騎兵第 2 旅団第 15 連隊

第 15 連隊の跡地は、昭和 41 年（1966）から平成 14 年（2002）まで習志野警察署が置かれていたが、習志野市鷺沼台へ移転し、日大の多目的コートとなった。

隣接して東邦大学附属中高校が、北側には県営・市営のマンション群が広がっている。

硫黄島で玉砕した最高指揮官、栗林忠通は第 15 連隊出身であり、第 21 代旅団長を務めた。

## 10. 司令部

市民プラザ大久保付近には、木造 2 階建ての司令部が存在していた。司令部正前から北へ延びる道は、騎兵第 1 旅団と第 2 旅団の分岐点となっている。この道は途中で二手に分かれ、左側は二宮神社へ、右側は三山商店街からマルエツ、山田電機を中心としたショ

ッピングモールへと続き、その先が習志野原の練兵場であった。この通路は「旅団街道」と呼ばれ、騎兵旅団創設当時は司令部の門から習志野原練兵場まで、道幅8間（約14m）で造られた。昭和8年（1933）に戦車第2連隊が駐屯すると、道幅を4間（約7m）拡大し、割石を敷き詰めたため、地元では「12間道」とも呼ばれた。現在は、整備されたけやき並木があり「けやき通り」として親しまれている。

## (1) 司令部跡（市民プラザ大久保）

木造2階建ての司令部は、戦後に習志野郵便局へ転用されたが、昭和36年（1961）の道路拡張により解体され、T字路が十字路へと変わった。郵便局は道左角の新局舎に移転したが、平成13年（2001）に習志野市津田沼へ移動。そのまま未使用の建物は、平成24年（2012）に習志野市の市民プラザ大久保として再建され、館内には日大で制作された司令部模型が展示され、住民交流の場となっている。

## (2) 八幡公園

市民プラザ大久保の南側に隣接する八幡公園は、南東に誉田八幡神社があることからその名称が付けられたと考えられる。かつては、司令部の講堂がこの地にあったが、昭和22年（1947）から昭和40年（1964）まで私立大久保保育所が入居していた。現在は建物は解体され、公園として整備されている。入口には司令部から移設した煉瓦造りの門柱3本があり、園内には騎兵旅団に関連する石碑が多数設置されている。

### 【代表的な石碑など】

- ・八幡公園入口の門柱
- ・習志野騎兵团発祥の地（昭和51年）
- ・馬頭観世音（昭和6年）
- ・軍馬忠魂塔（昭和15年）
- ・軍馬の碑

## 1 1. 誉田八幡神社

誉田八幡神社は、大久保新田の開祖である市角頼母が延宝年間（1673～1680）に、河内国古市郡誉田村（現：大阪府羽曳野市）の誉田八幡宮を勧請して創建したと伝えられている。

境内には、天満、稲荷、春日、金刀比羅、三峯、蔵王、疱瘡などの社が祀られている。

## 1 2. 秋山好古像

秋山好古は騎兵第1旅団の2代目旅団長。日露戦争でコサックを破ったことで有名。

平成21年（2009）5月17日、秋山好古の生誕150周年記念およびNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」放送を記念して、学園大久保商店街により建立された。

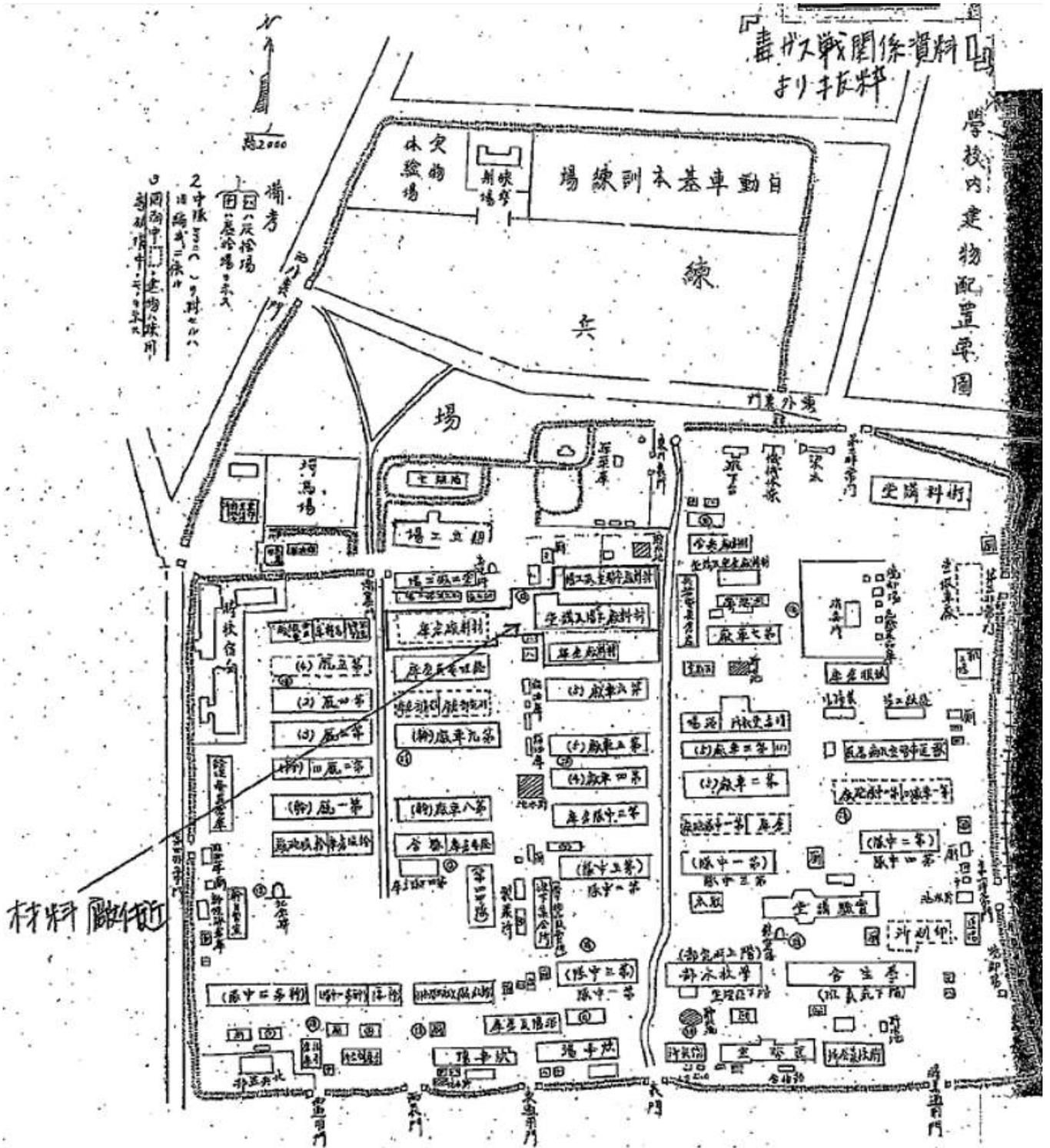
## 1 3. 京成大久保駅

大正15年（1926）12月、京成電気軌道株式会社により津田沼～酒々井間25.3kmが開通した際、大久保駅も同時に開業した。

大久保は学生が多く、若さ溢れる元気な街として知られ、現状の1日平均乗降客数は34,928人（2024年）である。

また、大久保の名称は、江戸時代初期に鷲沼などの領主であった旗本大久保氏に由来し、新田開発によって形成されたことから「大久保新田」とも呼ばれていた。

# 習志野学校配置図



出典：千葉県習志野の事案における毒ガス弾等の埋設情報の収集状況について（環境省資料）